

## 廃炉基盤研究プラットフォーム 第9回運営会議 議事録（案）

1. 開催日時：平成30年7月3日 13:30-15:30
2. 開催場所：JAEA 東京事務所 役員会議室
3. 議題
  - (1) 前回議事録確認
  - (2) 【状況報告（口頭）】英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業について
  - (3) 【状況報告】第7回 廃炉研究開発連携会議（人材育成について）（NDF）
  - (4) 今後の人材育成の考え方について
  - (5) NESTについて
  - (6) 平成30年度FRCの開催状況、今後の予定、等
  - (7) 事故進展の分科会新設について
  - (8) 【状況報告】各分科会の進捗状況
  - (9) その他
4. 出席者  
別紙参照
5. 議事概要
  - (1) 前回議事録確認  
何かあれば、コメント事務局まで。
  - (2) 【状況報告（口頭）】英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業について  
事務局より状況報告。予想を上回る応募があった。日英公募は7/12まで募集中。
  - (3) 【状況報告】第7回 廃炉研究開発連携会議（人材育成について）（NDF）  
資料9-2の説明
  - (4) 今後の人材育成の考え方について
    - ① 福島県に知の拠点を作るために
    - ② 分野横断性（分野を超えた知識，技術をまなび総動員）を達成するために
    - ③ 国際性（世界の共通した問題，国内外の英知の結集）を達成するために
    - ④ 社会受容性（技術を作るだけでなく，使われることも考える）を達成するために
    - ⑤ 現場のリアルな問題を解決できる人材を育成するために
    - ⑥ その他  
出された質問コメント等  
・人材育成機能をCLADSに集約することは賛成。西日本の学生など旅費等の

補助の仕組みがあると良い。大学生といえども、7年前は小学生。現場に連れて行くことで劇的に興味を示す効果あり。(安濃田)

- 福島県に管理区域を持っているところはほとんどない。一般大学が持っているもの以上のものは CLADS にはない。CLADS に行かなければできないようなものが欲しい。町ぐるみ感がない。研究者だけがやっているイメージがある。(高貝)
- 他分野を取り込むには、仕事につなげられないと続かない。その業界が自走できるようにすることである。(後藤)
- 土木の世界では、大学卒は直接現場作業はしない。プロジェクトマネージャー(プロマネ)になる。プロマネができる人材を育成するのが大学の仕事。建設、メーカーの若手も育成できるシステムがあればいい。大学と企業の融合で育成できればいい。また、若手教員の育成も重要(小峯)
- 福島の拠点をハブにして人材育成を進めることはいいこと。知の拠点の意味は？ハンフォードのそばにある PNNL や TMI のそばのペンシルベニア大学などがそれにあたる。知の拠点は人を集めるものである。(小山)
- 幅広い未来の可能性を持った学生たちに対して大学ができることは、質の高い経験をする機会を与えることと魅力的な人に会う機会を与えることである。(渡邊)
- 社会受容性について、高専では近くの自治体に就職する人が多い。そのような人間との連携や教育もスコープに入ってくると進むのでは？この手の課題を進めるのは大変である。お金を払ってくれる人のことを考えて断られることがある。アクティビティについて裏書きしてくれると助かる。(實川)
- CLADS の機能を明確にして、その機能を組み込んで使って欲しい、との具体的な問いかけをししないと外部から利用提案をしにくい(高貝)
- コンソーシアムでなくてもできるが、ダイバーシティを持たせたコンソーシアム(合同である人材育成プログラムを実施する)の中で人材育成を進める。コンソーシアムのサテライトラボを CLADS に作るなどを考えている。(岡本)
- コンソーシアム活動で分野横断型を確保するという意味ですね！その場合、コンソーシアムをどう作るかが課題。(小原)
- コンソーシアムにおいては原子力工学科だけで作るというのは避けたい。人材育成連合という共同事業体の意味である。大学連合でやってもらいたい。(岡本)
- CLADS がどのような仕組みを作って人材育成事業を進めるか？目的、やり方をしっかり考えないとこの人材育成事業を続けられない。CLADS がやりたいことをやるのではなく、事業を進めるための議論である。その意味でしっかり議論していく必要がある。(小川)

- ・ハブとしての機能はとてもいい。JAEAの方々がどの程度のアクティビティを示すのか？そのあたりの構想がポイントになる（實川）
- ・優れた人がしょっちゅうその場所にやってくるというのが知の集積ではないか。富岡に集まった人たちがそれぞれのコミュニティに戻る事が繰り返される。それによって自然に富岡やCLADSの認知度が高まる。それが知の拠点化に繋がるのでは（渡邊）
- ・国際性を高めるためには、FRCをもう一段活用すべきでは。（渡邊）
- ・地元の人とのリンク、社会人の育成、知の集積のやり方についてご指摘いただいた。CLADS内部でまとめていく。（岡本）

(5) NESTについて

11月26日から10日程度の短期プログラムを始める。

日本人5名、海外5名から始める。今後、参加を募る。

(6) 平成30年度FRCの開催状況、今後の予定、等

平成30年度中に6回を予定。すでに1回実施済み。

廃棄物Div.のFRCについて実施報告。

(7) 事故進展の分科会新設について

事故進展分科会新設が確認された。

燃料デブリ取り出し工程検討のために、IRID事業で作った、炉内状況マップに反映していく。

(8) 【状況報告】各分科会の進捗状況

- ・腐食、放射線計測：分科会の実施報告
- ・経年変化：ロシアが公募で実施中
- ・微粒子：一部をIRID事業で実施
- ・汚染機構解明：英知事業で少しずつ進展。学会で発表予定。
- ・環境中動態評価：アメリカの都合で延期中。浅いところの地下での放射性物質の挙動は、地下水位が高い日本の特徴的な課題である。サイエンスとして難しい。低レベルの処分においても同じ状況であり、ニーズのある仕事と考えている。

(9) その他

特になし

以上

## 出席者一覧（敬称略）

JAEA 外	JAEA
渡邊（東北大）	船坂（JAEA）
青木（東北大）	中山（JAEA）
小原（東工大）	岡本（JAEA）
安濃田（福井大）	木村（JAEA）
高貝（福島大）	鳥居（JAEA）
實川（福島高専）	山本（JAEA）
小峯（早大）	芦田（JAEA）
後藤（早大）	菖蒲（JAEA）
鈴木（千工大）	
小山（電中研）	
渋谷（太平洋コカ）	
宮本（NDF）	
中島（NDF）	
川村（IRID）	
戸島（東電）	事務局
宮谷（東電）	宮本（JAEA）
戸澤（MEXT）	久保田（JAEA）
	前橋（JAEA）
	田川（JAEA）